



**<研究主題達成のための手立て>**  
国語科を中核とした「大宝メソッド」で、主体的・対話的な学びを基礎・基本としつつ、習得・活用・探究という学びの過程のなかで、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、自ら課題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現することができるようにする。

**「大宝メソッド」(国語科を中核として、21世紀型資質・能力を見据えた授業改善)**

(基礎・基本部会)	(思考のことば部会)	(振り返り部会)	(カリキュラム・マネジメント、言語環境部会)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業前に15分×3回のモジュールで行う。「<b>大宝タイム</b>」</li> <li>2. 年間カリキュラム(話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと)のスキル、語彙)を作成する。</li> <li>3. 全教科を横断する汎用的な言語能力の定着を図る。</li> <li>4. 国語科の教材を中核とした単元構成を工夫し、他教科との関連を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低、中、高学年の段階に応じて考えを整理して話す(意見・立場・理由・具体・順序など)話型「<b>大宝思考のことば</b>」の設定。</li> <li>2. 思考力を十分働かせることができるよう、話型と発問を例示する。</li> <li>3. 協働学習での定着、活用を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一単元、または一時間の授業で、何を学びどんな力がついたのか、また、何が足りなかったのか、(情意面・技能面・内容面)どのような資質・能力を身に付けたか等をメタ認知し、自らの学びを振り返り、そこから新たな課題の設定を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語を中核として、単元、各教科、学年を横断する年間指導計画の作成。</li> <li>2. 「大宝ことばの森」を中心に、教室、給食、保健など、日常生活における望ましい言語環境の整備を図る。</li> </ol>

子どもたちにどのような資質・能力を育むのかを明確にし、国語科を中核として、言語活動の充実はもとより、各教科間との内容を相互に関連付け、教科横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントにより学習を進める。

**全教科における基本的な学習過程**

段階 目安時間	指導事項	指導・評価の留意点	(具体例) * 「学習・生活の約束」(話し方・聞き方の方法)
めあて 1~3分	学習課題を明確にして、能動的な学びを引き出す。	能動的な学びを引き出すために、本時のねらいを適切に示すこと。単に「～を学ぼう」「～をしよう」という活動、行動目標ではなく、必然性、目的、プロセス、手法、ゴールを示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日は、〇〇のために〇〇を勉強します。最初は説明をよく聞いてください。途中で理解したかどうかの確認をします。授業の最後には、隣の人に、〇〇の〇〇について学んだことを話してもらいます。友だちに説明できるように、自分なりの整理しながら学んでください。」</li> <li>・教科によっては「なぜ? どうして～なのだろうか?」というめあてが望ましい。</li> <li>・めあてが児童自身に理解できたかどうかという確認をする。</li> <li>・単元全体や学習過程を可視化できるようにしておく。</li> </ul>
自学習 5~15分	課題に対して自分の考えを明確にさせる。	協働学習を有益な学習につなげるため、既有知識を活用して自分の思いや考え、予想や予測を確認しておく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プレゼンテーション能力」を想起して、自らの考えを表現する場。</li> <li>自分の考えが明確になったら「結論→理由→結論」で発言することを想定して、まとめておく。</li> <li>・教科や場面によっては教師の発問によって理解を促していく。</li> </ul>
協働学習 5~10分	友達の考えと交流し、自分の考えを深めさせる。	深い学びを実現するために、見方、考え方を働かせ論理的に思考・判断・表現できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考のことば」「ハンドサイン」等を活用する場面。</li> <li>教師がファシリテーターとなって学級全体で話し合う。</li> <li>・または、司会者をたてて、少人数(最大5人迄)で話し合う。(ジグソーも可)(小黒板やタブレットを活用する)</li> </ul>
まとめ 5~7分	本時で学習した内容を確認させる。	振り返りをしっかりとするための重要な認知活動となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この時間に学習したことを3分以内で隣の友達に説明しよう」</li> <li>この段階でも「思考のことば」を活用できる。自分の考えの変容も交えられると振り返りへとつなげることができる。</li> <li>または、教師が全体をコーディネートして、学習をまとめる。</li> </ul>
振り返り 5~10分	次時の学習へとつながる情意面・技能面・内容面の振り返りをする。	毎時間できる振り返りと、単元の最後に振り返り、「探究活動」へとつながる新たな課題の設定のための振り返りと分けて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「技能面」(知識・技能等) &lt;何が理解でき、どんなことばの力が身に付いたか。&gt;</li> <li>「内容面」(思考力・判断力・表現力等) &lt;どのように考え、深め、表現できたか。&gt;</li> <li>「情意面」(主体的に学習に取り組む態度等) &lt;ことばを通じて培った態度。&gt;</li> <li>「大宝7つの力」(育みたい資質・能力)「非認知能力」等について、教科を横断して汎用性のある振り返りを考える。</li> </ul>

ことばを通して、深い学びに向かう力・人間性を涵養する